

8 高等教育機関合同公開講座



# 「函館学」

後期：函館の食や他地域との交流  
第5回

「函館の縄文文化と交流  
—観光考古学の視点から—」

講師 函館市生涯学習部南茅部埋蔵文化財担当

参事 阿部千春

開催日時：平成18年12月2日(土)午後2時～3時30分

開催場所：函館市中央図書館 視聴覚ホール

## 函館の縄文文化と交流 - 赤・黒・碧の世界 -

### 1 縄文文化とは何か

- (1) 年代 → 約 12,000 年～2,000 年前までの 10,000 年間続いた文化
- (2) 交易 → 狩猟・採集を生活基盤としながら活発な交易を行った文化
- (3) 精神 → 自然と共生し、「命の再生と循環」を哲学とした世界に類のない文化

### 2 赤の世界

- (1) 豊富な漆製品 → 東日本の縄文人は漆好き
- (2) 垣ノ島B遺跡の漆糸製品 → 世界最古の漆糸製品
- (3) 漆糸製品の分布と背景 → 日本海ルートの交流・交易ルート

### 3 黒の世界

- (1) アスファルトの用途と研究史 → 縄文時代のハイテク (接着剤)
- (2) 豊崎N・磨光B遺跡のアスファルトと産地同定の方法 → 秋田, 新潟, サハリン
- (3) アスファルト交易の実態と課題 → 続縄文時代に急速に減少

### 4 碧の世界

- (1) 縄文人にとってのヒスイ → 高度な加工技術と碧の意義
- (2) ヒスイの産地 → 古事記「沼河比売」と万葉集「沼名川」～新潟県糸魚川市姫川
- (3) ヒスイ交易と分布の傾向 → アスファルトとセットで流通

### 5 縄文文化交流・交易の様相

- (1) 広域的な交流・交易の成立背景 → 流通経路の存在と、拠点的な集落の存在
- (2) 函館からの交易品は何か? → 本州からの交易品に見合う特産品は何か
- (3) 安定同位体の分析による食糧の推測と交易品の可能性 → 海の資源を活用

### 6 観光考古学の視点から

- (1) 縄文時代の交流を未来へ → 縄文時代の交流をもとに地域間交流を推進
- (2) 地域の魅力を高める → 縄文時代から続く豊かな海, 水産業に光を当てる
- (3) 縄文ネットワーク → 遺伝子を遡る「縄文観光」の魅力と可能性
- (4) インターネットの普及による旅行・流通形態の変化 → 縄文の丸木船から道路, 鉄道, 飛行機への進歩より変化が大きいインターネットの普及 ~ 現地の風景, 文化に触れる重要性
- (5) 広域プロジェクト → 「北の縄文文化回廊づくり」, 「シーニック・バイウェイ」, 「私の旅100選」との連携
- (6) 「函館市南茅部縄文遺跡群整備構想」の取り組み → 史跡大船遺跡, 垣ノ島遺跡, 縄文文化交流センターの整備と効果

年 表 (旧石器～縄文～中世)

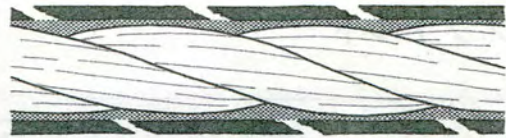
年代 (西暦)	本 州		北 海 道		主な出来事と関連遺跡
B.C 20,000	旧石器時代		旧石器時代		・北海道に人が住み始める
B.C 10,000	縄文時代	草	縄文時代	草	・細石刃がつくられる
B.C 8,000					早
B.C 4,000		前		・竪穴住居がつくられる	
B.C 3,000				中	・漆糸がつくられる (垣ノ島B)
B.C 2,000		後			・足形付土版 (垣ノ島A)
B.C 1,000				晩	・縄文海進が始まる
B.C 300	弥生時代	続縄文時代	後		・木胎漆がつくられる
0				・円筒土器文化圏が形成される	
400	古墳時代	オホーツク文化	中	・アスファルトの利用が始まる	
600				・ヒスイが装飾に利用される	
800	飛鳥時代	擦文時代	後	・大規模な集落がつくられる (国史跡大船遺跡)	
1,200	奈良時代			・盛土遺構, ストーン・サークルが出現 (石倉貝塚・垣ノ島A)	
1,400	平安時代	中世 アイヌ文化期	晩	・アスファルト, ヒスイがピーク	
	鎌倉時代			・中空土偶が作られる (著保内野)	
				・藍胎漆器が盛行する	
				・東日本に亀ヶ岡文化栄える	
				・漆, アスファルト, ヒスイ衰退	
				・恵山文化が栄える (恵山貝塚)	
				・琥珀, 金属器が伝えられる	
				・北海道の文化が本州へ南下する	
				・オホーツク文化がサハリンから南下する	
				・阿倍比羅夫の北征	
				・北海道式古墳がつくられる	
				・蕨手刀や帯金具が伝えられる	
				・平地式住居がつくられる	
				・道南に館が築かれる	
				・道南でアイヌと和人が争う	

\*北海道教育委員会が公開している年表を参考に一部修正・加筆して作製

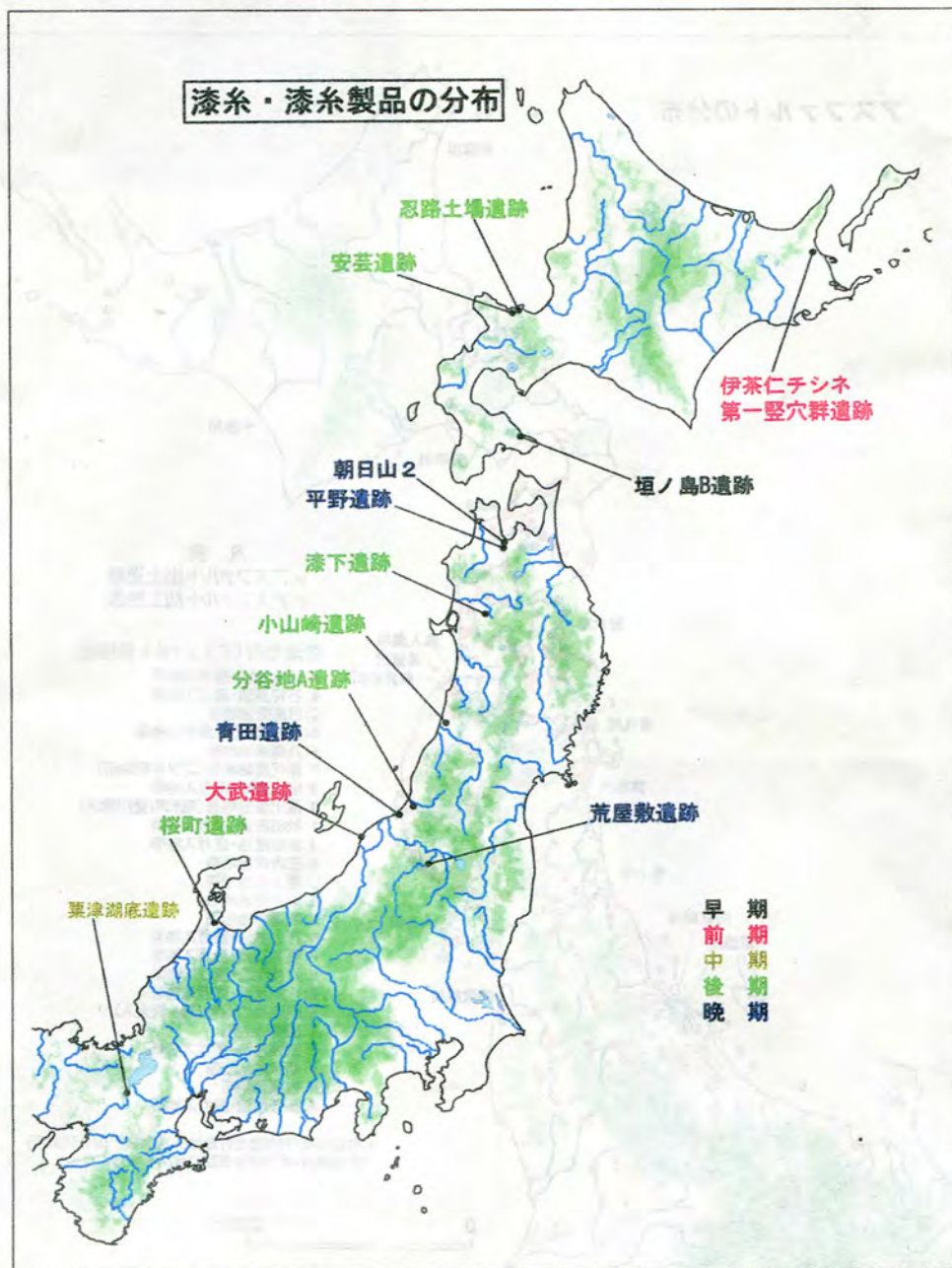
# 漆 糸



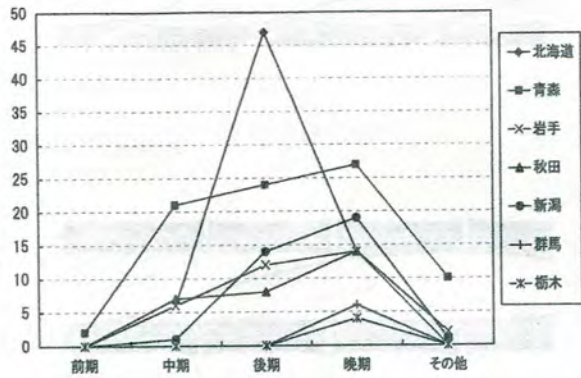
垣ノ島B遺跡出土の漆糸製品



漆糸の構造



# アスファルト



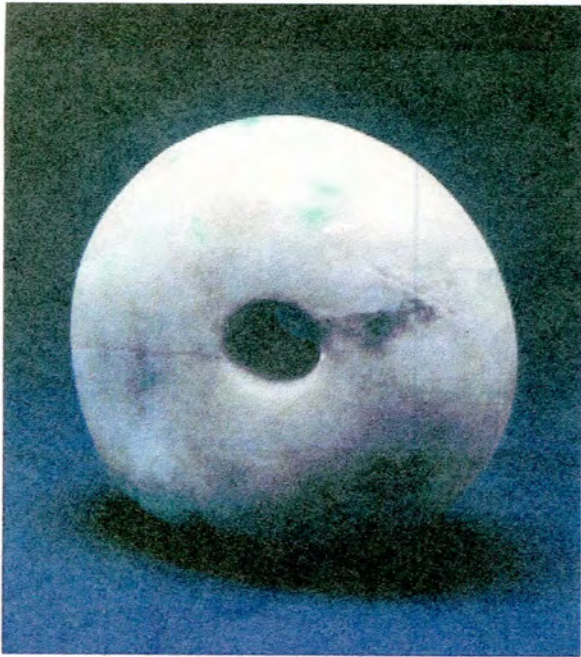
アスファルトの時期別出現率



皮袋の圧痕が付いたアスファルト (磨光B遺跡)



ヒスイ



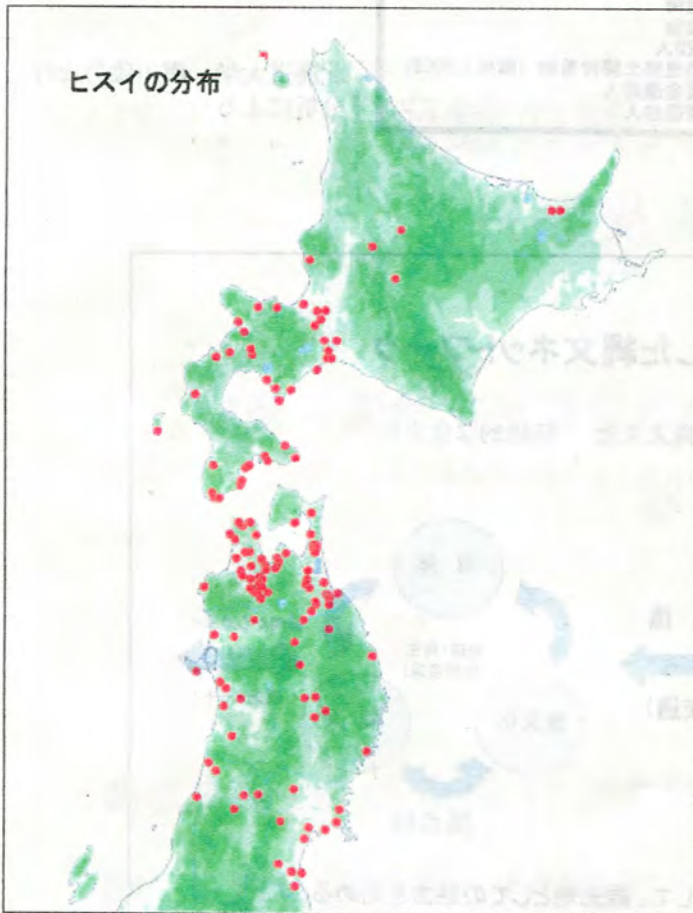
ヒスイ大珠 (浜町A遺跡)



ヒスイ勾玉 (著保内野遺跡)



ヒスイ連珠 (八木A・B遺跡)



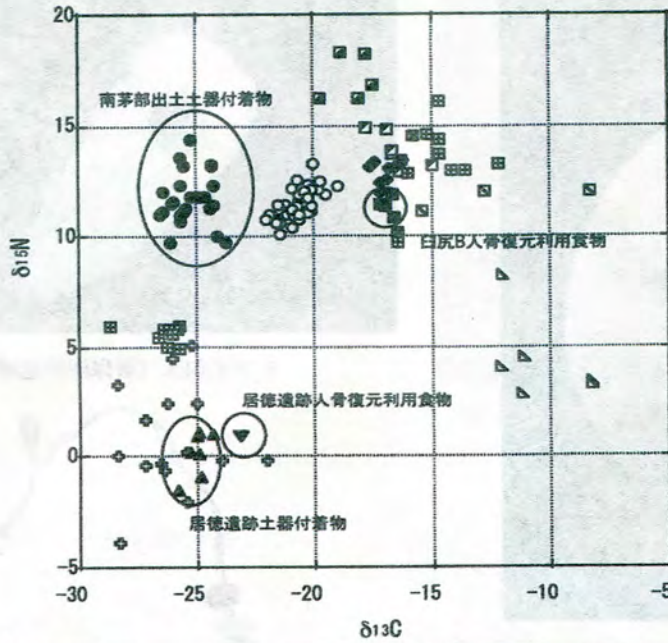
ヒスイの分布



ヒスイ勾玉 (日ノ浜遺跡)

# 食糧資源

土器付着物と食物資源および人骨から推定された利用食物のδ値の比較



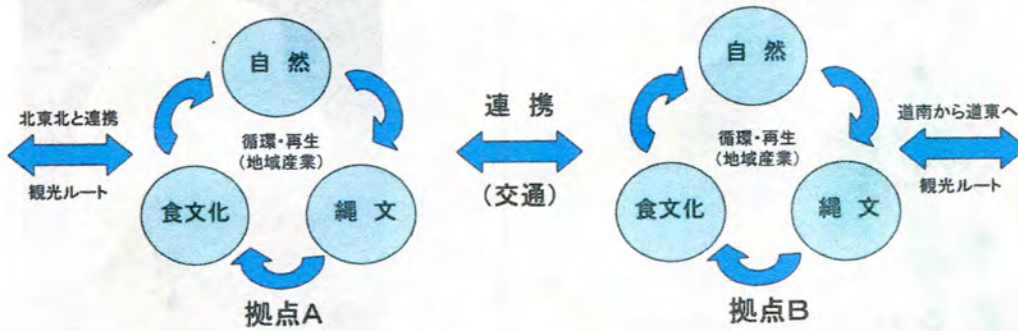
● 榎林式	□ イルカ
● 大安在B式第二段階	■ マグロ
● ノダツPⅡ式	▣ クロダイ
● 入江式	▤ 魚類
● 古武井式	⊕ C3植物
● サイベ沢V式	⊖ C4植物
● 見晴町式	■ 白尻B人
○ 石狩川サケ肉	▲ 居徳遺跡土器付着物 (藤根ら2003)
● 鹿肉 (足寄)	◆ 北黄金遺跡人
■ オットセイ	▼ 居徳遺跡人

北海道大学 南川雅男氏の分析による

# 縄文ネットワーク

## 地域の魅力を活かした縄文ネットワーク

多様な自然環境 固有の縄文文化 伝統的な食文化  
 縄文文化を支えた各地域の自然と食文化に光をあてる



各地域の個性や潜在力を引き出して、観光地としての魅力を高める。  
 各地域の食文化(一次産業)を引き立たせる。